校長室だより

柏原市立堅上小学校
令和６年度　第７号
令和６年９月２日

２学期始業式の日、在校生全員が元気に登校してくれました。

猛暑の日が続き、夏休みに入ってすぐの時期に、全国各地で水の事故により小学生や中学生が亡くなったという報道が続きました。そのようなニュースに触れるたびに、避けることができなかったのかと思ったり、避けるためにどのように子どもたちに伝えたら効果的なのかを考えてしまう自分がいました。そのような思いを持ちつつ、本校の児童が夏休みの楽しい思い出をつくって今日を迎えてくれたことをうれしく思います。

２学期は合同体育大会を筆頭に、各学年とも多くの行事があります。まずは９月２９日に行われる幼小中合同体育大会に向けて練習が始まります。縦割りの「なかよし団」での取り組みもあります。一人ひとりが自分にできることをしっかりと頑張り、その力を集めて、協力して作り上げる大切な機会です。しんどいこともあるでしょうが、頑張って欲しいことを始業式でも伝えました。大きく成長していく姿を見られることを職員一同で楽しみにしています。健康第一で過ごせるよう、２学期もご家庭のサポートをよろしくお願いいたします。

【林間学舎(7/22,23)】

大内教頭先生を学校の引率責任者として２日間の林間学舎を実施し、暑い中ですが実りある体験をしてきました。以下は教頭先生のレポートです。

林間学舎に行ってきました！

堅上小学校に赴任してから５か月が経ちました。多くの子どもたちが教室やろうかで「教頭先生！聞いて！」と声をかけてくれます。授業を担当することもないので、接する機会が少ないですが、堅上小の子どもたちの明るさやあたたかさを感じています。

今回は５年生、６年生と７月２２日・２３日に行った林間学舎の様子についてです。一番心配していたことは天気です。前任校で５年生を担任したときには、林間学舎が雨になったこともあり、活動予定が大きく変わったこともありました。せっかくの林間学舎なので、子どもたちには予定通り思い切り自然を楽しんでほしい、と思っていました。２日とも晴天続きでよかったのですが、逆に熱中症が心配になりました。少し体調を崩す人もいましたが、休憩するとすぐに回復して、みんなと一緒に活動することができました。

堅上小学校も自然豊かな環境ですが、六甲山や神戸自然の家も堅上とはちがった自然の良さがありました。自然に囲まれた環境で感じることがたくさんあったと思います。

また、全ての活動を通して、子どもたちの助け合いや思いやりの行動には心を動かされました。普段の学校生活とはちがう状況で、声をかけ合いながら活動していました。堅上小学校ならではの異学年交流の成果が、こういったところでも出ているのだなと感じました。

次は２年後に現３年生・４年生が林間学舎に行きます。堅上小学校が大事にしていることを引き継ぎながら、こうした行事を通して集団の力を高めていってほしいと思います。

【特認に関するアンケート】

１学期も終わり近くの７月にアンケートのご協力をお願いしたところ、小学校・中学校の保護者のみなさまから多くのご回答をいただきました。多くの回答をいただいたため、活用についてはいただいた回答を要約するなどして、来年度の特認募集に向けて様々な場面で活かしてまいります。本当にありがとうございました。

【９月の気象状況】

8/1 に気象庁から発表された 7 月の日本全国の気温は、全国 153 の気象台等のうち 62 地点で、月平均気温が 7 月として歴代 1 位の高温となりました(12 地点のタイ記録を含む)。また、日本の月平均気温の基準値からの偏差は+2.16℃で、統計を開始した 1898 年以降の 7 月として、昨年の記録を更に上回り、最も高くなりました。暑いはずですね。この時点では 8 月も暑い日が続くとの予想でしたが、予報通りの暑さでした！

９月もこの傾向が続きそうです。そのような中、合同体育大会に向けて練習が始まりますが、良いものを作り上げるために練習をがんばってもらいたい気持ちもありますが、堅上小学校としては、「安全第一」をモットーにその中でできる最高の演技をつくっていくように進めていきます。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【南海トラフ地震臨時情報発令(8/8)】

８月８日１６時４３分頃に日向灘を震源とするマグニチュード７．１の地震が発生し、宮崎県日南市で震度６弱が観測されました。

「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」が開催され、南海トラフ地震臨時情報で「巨大地震注意」という発表を受けて「どうなるのだろう」「すぐに大きな地震が来るのかな」と心配になった方も多いのではないでしょうか。報道等で繰り返し伝えられたように、「1 週間以内に大きな地震が必ず起こる」という意味ではありません！　M(マグニチュード)7 くらいの地震が起こると、近接した地域では同規模かその前後クラスの地震が起こる可能性があります（例：能登半島地震・熊本地震など）。また、震源想定区域が東西 500 ㎞ある南海トラフではそのどこかで M6.8 以上の地震が起こった場合は上記の検討会を行って影響を勘案して国民に伝えることになっています。

危険度がないと判断された場合は「調査終了」という発表になるのですが、今回は初めて「巨大地震注意」の発表となりました。これは、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の

発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると判断されたということです。対応としては、慌てず政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応（家族の連絡方法や備蓄品、非常時持ち出し物品などの確認など）をとることが推奨されています。

大規模地震は突然やってきます！　何よりも大切なのは、平常からの準備と心構えであることを再確認して、このような機会に家族でしっかり話し合いや確認をするようにしましょう。

【台風に関する基礎知識】

この夏は、７月までは平年に比べて少ない発生数でしたが、８月は平年並みの６個の台風が発生しました。帰省時期と重なる８月中旬には台風７号が関東地方に接近し、新幹線などが計画運休するなど多くの人に影響を与えました。

また、夏休み最終週である先週には台風１０号が 8/22 に日本の南方で発生し、当初は週明けの 8/27 頃に日本に接近という予報でしたが、結果的には 8/29 に鹿児島県に上陸し、迷走しています(8/29 現在)。現在のスーパーコンピュータをもってしても予想が困難であったようです。

例年を基準に考えると、これから 10 月下旬ころまで、引き続き台風の接近・上陸の可能性があります。ということで、以下に台風に関する基礎知識や備えについて簡単に記しておきますので参考にしていただけたら幸いです。

台風の大きさと強さ

台風のおおよその勢力を示す目安として、風速をもとにその「大きさ」〈強風域（風速 15m/s 以上の強い風が吹いている範囲）〉と「強さ」〈最大風速〉 が表現されます。強風域の内側で風速 25m/s 以上の風が吹いている範囲を暴風域と呼びます。

大きさの階級分け

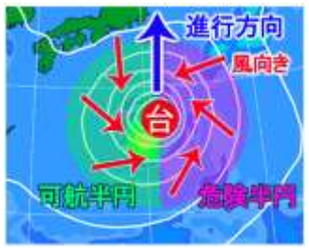
階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

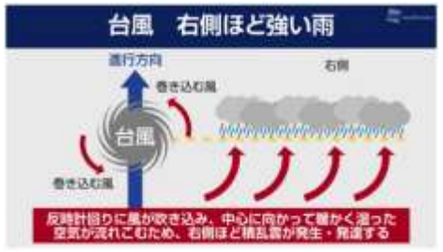
強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s(64ノット)以上～44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上～54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

台風の左側・右側

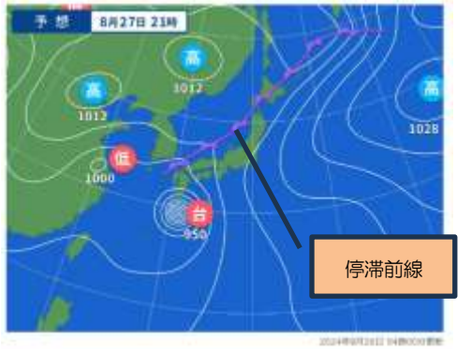
台風の風は中心に向かって反時計回りに吹き込んでいます。一般的に中心より右側のほうが台風の進行速度が加わって風が強い傾向になります。また、南の海上の湿った空気を引き込むため右側のほうが雲が発達しやすく雨が強い傾向にあります。ただし、あくまで一般的な話であり、前線や地形の影響を受けるので、「台風は東側を通過するから大丈夫」という判断は危険であることも知っておきましょう。





台風＋前線＝大雨による被害リスクが上がる！

右図は、先週九州に上陸した台風 10 号の上陸前の時点での天気図です。北海道～日本海にかけて秋雨前線（６月なら梅雨前線）と呼ばれる停滞前線があることが分かります。停滞前線は北側に冷たい空気、南側に暖かい空気があってぶつかっているところにできます。ここに台風が近づくと、台風の右側の南寄りの湿った空気が前線に吹き込むことにより台風から離れた場所でも大雨を降らせます。この台風 10 号も九州南部にある時に遠く離れた愛知県や静岡県で大雨による被害が出てしまいました。



台風接近への対応

台風に関しては発生した時点から刻々と情報が提供されるため、事前に情報が得られます。また、近年の予報技術の進歩により台風の予想進路等についての情報は接近するにつれて精度が上がっています。（今回の台風 10 号のように予測困難なケースもまれにある）

危険から身を守るためには、報道や気象庁をはじめとする気象に関する情報提供を確認して、事前に対策を立てておくことが大切です。

○土砂災害や浸水の恐れがある場所にいる時は、危険が迫る前にその場を離れて避難する。

○家の周辺で風に飛ばされそうなものは屋内に移動したり、ロープなどで固定する。

○飛来物で窓ガラスなどが割れないように雨戸を閉めたり、養生テープなどでガラスを保護する。

○停電などに備え、

- スマホ・モバイルバッテリーなどの充電を行っておく。ガソリンを満タンにしておく。
- 現金も用意しておく。（電子決済は使えなくなるため）
- 冷凍庫にペットボトルの水などを保管しておく。（冷蔵庫に入れれば少しの間は冷たさを保てたり、溶けた後は飲料水として使える。